

抗アミロイド抗体薬治療を踏まえた認知症の人の介護家族等への支援の実態調査研究
研究分担者 三重大学大学院医学系研究科 神経病態内科学 新堂 晃大

研究要旨

抗アミロイドβ抗体薬治療に伴う患者・家族支援の課題を明らかにすることを目的とし、三重大学のスクリーニング事業（DITS）利用者および抗アミロイドβ抗体薬（DMT）の通院患者を対象にアンケート調査を実施した。DITS群では情報不足や理解困難、治療施設へのアクセスが主な課題であった。DMT群では費用負担や通院負担が中心であり、主介護者の多くが高齢であった。APOE検査に関する理解不足は両群に共通して認められた。導入前後で課題は異なり、導入前は情報提供とアクセス改善、導入後には経済的・社会的支援強化が重要と示唆された。

A. 研究目的

本研究は、抗アミロイドβ抗体薬治療（disease-modifying therapy: DMT）の導入に伴い生じている患者・家族支援上の課題を明らかにすることを目的とする。特に、治療適応の可否や治療選択に関する意思決定過程、アミロイド関連画像異常（ARIA）や副作用に対する理解、通院負担や介護体制の問題などに着目する。三重大学における脳の健康スクリーニング（Dementia IT Screening : DITS）利用者、DMT治療対象例および非対象例（適応外・未選択例）双方の視点から実態を把握し、地域医療における診断後支援および治療支援の在り方を検討する。

B. 研究方法

三重大学のDITS利用者、三重大学医学部附属病院に通院中の患者のうち、DMTの対象者、ならびに適応外または治療を選択しなかった者を対象として、アンケート調査を実施する。調査は質問紙により実施し、治療に関する理解度、意思決定の背景、通院・介護負担、心理的影響、支援ニーズ等を収集する。

（倫理面への配慮）

本研究は三重大学医学部倫理委員会の承認を得て実施した。

C. 研究結果

DITS群では治療に関する情報不足、理解困難、治療施設へのアクセスの問題が顕著であり、「どこで受けられるかわからない」「説明が難しい」などの回答が多く認められた。また、通院困難や付き添い不在といった社会的要因も障壁として挙げられた。一方、DMT群では治療内容の理解は一定程度得られていたが、費用負担、通院負担、長期治療に対する不安が主要な課題であった。また、APOE検査に関する理解不足や説明不十分を指摘する自由記述も認められた。

さらに、DMT群の主介護者は全例で存在し、その約7割が65歳以上であったことから、現在の治療体制が家族介護に大きく依存している実態が明らかとなった。

これらの結果から、抗アミロイド抗体療法における課題は治療導入前後で異なり、導入前には情報提供とアクセス改善、導入後には経済的・社会的支援

の強化が必要であることが示唆された。

D. 考察

本研究により、抗アミロイドβ抗体薬治療における課題は、治療導入前（DITS群）と導入後（DMT群）で質的に異なることが明らかとなった。DITS群では、治療に関する情報不足や理解困難、治療施設へのアクセスの問題が主な障壁であった。一方、DMT群では、費用負担や通院負担、長期治療に伴う不安といった実務的課題が中心であった。

また、APOE遺伝子検査に関する理解や説明の不十分さは両群に共通して認められた。さらに、DMT群では主介護者の多くが高齢であり、治療体制が家族介護に依存している実態も示された。

以上より、抗アミロイド抗体療法普及には、導入前の情報提供体制の強化と、導入後の経済的・社会的支援の充実を一体的に整備することが重要と考えられる。

E. 結論

本研究により、抗アミロイドβ抗体薬治療における患者・家族の課題は、治療導入前と導入後で大きく異なることが明らかとなった。導入前には情報不足や理解困難、治療アクセスの問題が主要な障壁であり、導入後には経済的負担や通院負担、家族介護への依存が重要な課題となる。また、APOE遺伝子検査に関する説明体制の不十分さも共通の課題として認められた。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

該当なし

2. 学会発表

該当なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

特記事項なし